



2週間以上続く咳 百日咳かも！

感染症発生動向速報

(令和2年 第7週分・2月10日～2月16日)

《インフォメーション》

●百日咳

第6週に3人、第7週に2人と続けて百日咳患者が報告され、今年の県内の患者数は8人となりました。

百日咳は、百日咳菌を原因とする急性の呼吸器感染症で、患者の咳やくしゃみなどに含まれる菌を吸い込むことにより感染します。百日咳は感染力が強い感染症で、学校や集団施設における集団発生が報告されています。

昨年は県内で百日咳が流行し、1年間に253人の患者が報告されました(図)。第28週(7月8日～14日)には最も多い30人の患者が報告されました。患者を年齢別に見たところ、小・中学校の学童を中心とした百日咳流行と考えられました。今年の患者の年齢を見ても、7人は小学生と推定される年齢であり、小学校などで感染が拡大することが懸念されます。とりわけ、生後6か月未満の乳児の百日咳は重症化しやすいことから、同居する家族からの感染には注意が必要です。

学童期の患者の大半は百日咳ワクチンを4回接種していることから、乳幼児期の定期接種後、就学前までに百日咳抗体が減衰していることが推察されています。そのため、日本小児科学会は、就学前に百日咳含有ワクチン(任意接種)を追加接種することを推奨しています(詳細は、学会のホームページをご参照ください)。

感染拡大を防止するには、百日咳を疑う患者の早期の診断、治療が必要です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。また、咳が続く人はマスクを着用することで感染拡大を防止することが大切です。

日本小児科学会の百日咳ワクチン接種推奨ポスター

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=310

《全数報告の感染症》

二類感染症 結核 2件(①30歳代、女性 ②80歳代、男性)

五類感染症 水痘(入院例) 1件(40歳代、男性)

百日咳 2件(①10歳未満、女性 ②10歳代、女性)

《定点報告の感染症》

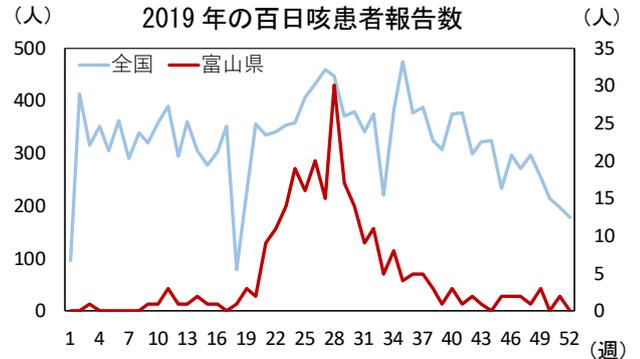
今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週(増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	8.31(↑)	8.10
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7.28(↑)	6.79
3位	インフルエンザ	3.71(↓)	5.33
4位	伝染性紅斑	0.76(↑)	0.69
5位	咽頭結膜熱	0.59(↓)	0.72
6位	水痘	0.38(↓)	0.83

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます

アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

令和2年2月19日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)
(0766-56-8142 細菌部)
(0766-56-8143 ウイルス部)



○感染症発生動向調査報告状況（令和2年第7週 令和2年2月10日～令和2年2月16日）

分類	疾患	今週報告分（第7週）						累積報告数					
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
二類感染症	結核	1		1			2	2		3	2	10	17
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症									1		3	4
四類感染症	A型肝炎							2					2
	レジオネラ症							1					1
五類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症									1	1	2	4
	急性脳炎							2					2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症											2	2
	侵襲性肺炎球菌感染症									1		1	2
	水痘（入院例）			1			1			2		2	4
	梅毒							1				1	2
	百日咳				2		2				7	1	8
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ	31 4.43	7 1.40	83 6.38	11 1.57	46 2.88	178 3.71	608	250	690	544	821	2,913
	RSウイルス感染症			3 0.38		4 0.40	7 0.24	1	4	14	1	28	48
	咽頭結膜熱	1 0.25	10 3.33	2 0.25	1 0.25	3 0.30	17 0.59	11	28	22	4	28	93
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4 1.00	10 3.33	65 8.13	12 3.00	120 12.00	211 7.28	26	36	407	75	541	1,085
	感染性胃腸炎	31 7.75	43 14.33	39 4.88	12 3.00	116 11.60	241 8.31	259	174	255	116	734	1,538
	水痘	2 0.50	2 0.67	3 0.38		4 0.40	11 0.38	15	15	19	9	40	98
	手足口病	3 0.75		2 0.25	2 0.50		7 0.24	17		11	3	33	64
	伝染性紅斑			2 0.25		20 2.00	22 0.76	8	6	12		115	141
	突発性発しん	1 0.25	1 0.33	3 0.38	1 0.25	1 0.10	7 0.24	4	5	26	12	19	66
	ヘルパンギーナ	2 0.50			1 0.25		3 0.10	10		6	1		17
	流行性耳下腺炎			1 0.13			1 0.03			1	2	1	4
	流行性角結膜炎								4	6	2		12
	無菌性髄膜炎										1		1
	マイコプラズマ肺炎								2	1	5	2	10
	インフルエンザによる入院患者（*）	1		1		4	6	42	5	26	64	48	185

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。

* インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和元年第36週(9月2日)～の集計です。

インフルエンザ定点における患者診断状況

このデータは、インフルエンザ定点医療機関で実施されたインフルエンザ迅速診断キットの診断数を集計したものです。

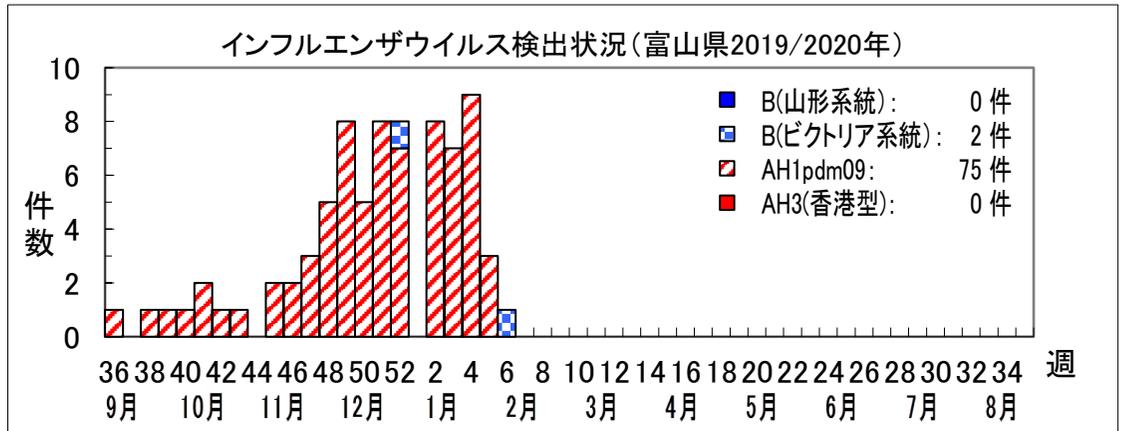
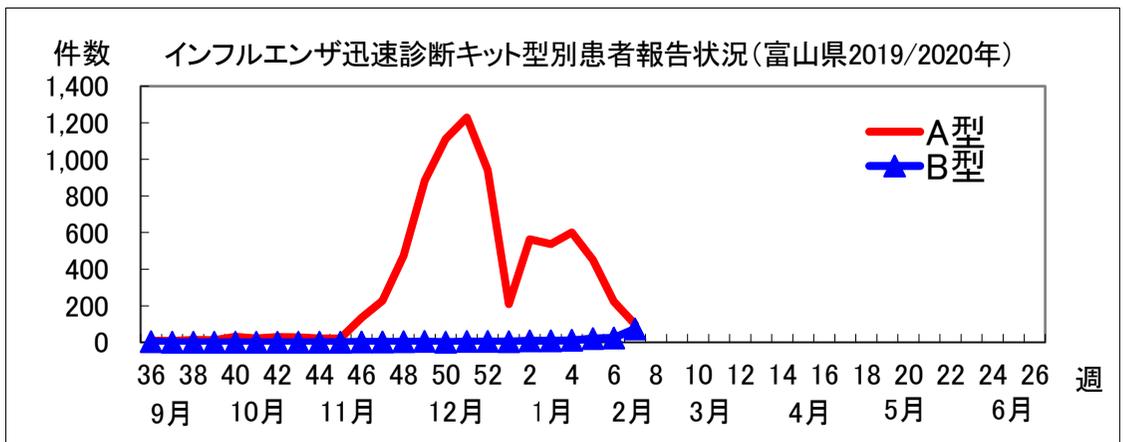
現在、下の表によると、A型が55.6%、B型が41.6%となっています。

第7週(2/10~2/16)：富山県 3.71人/定点

(単位:件)

厚生センター・保健所名	報告数/定点数	迅速診断キット		その他 ^{※2}	合計
		A型	B型		
新川	5 / 7	29	1	1	31
中部	3 / 5	6	1	0	7
高岡	10 / 13	39	42	2	83
砺波	4 / 7	6	4	1	11
富山市	11 / 16	19	26	1	46
富山県	33 / 48 ^{※1}	99	74	5	178
富山県累計(2019年36週~)		7,878	182	305	8,365

※1 48の定点医療機関のうち、インフルエンザと診断した医療機関が33か所あったことを示します。
 ※2 「その他」には、臨床症状等によりインフルエンザと診断したが型別までは不明な患者や迅速診断キットの結果がA型とB型共に陽性の患者が対象となります。



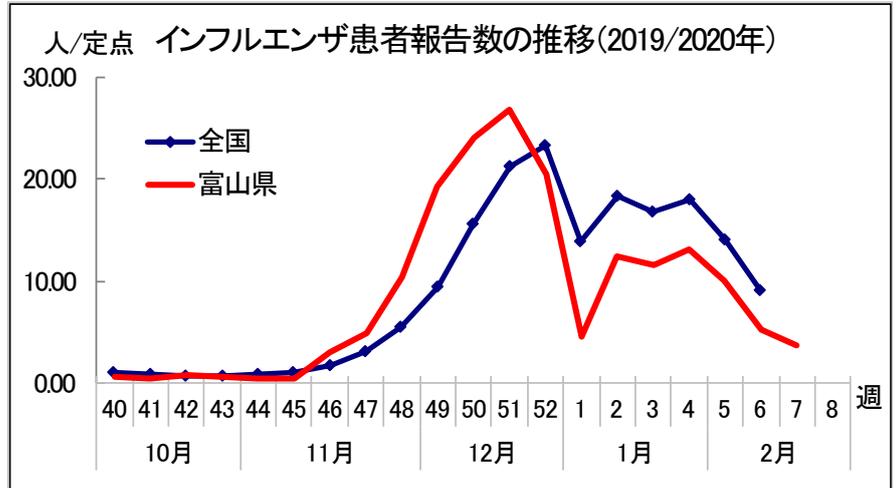


● 定点医療機関からのインフルエンザ患者報告状況

第7週 (2/10~2/16) : 富山県 3.71 人/定点

新川 HC (4.43)、中部 HC (1.40)、高岡 HC (6.38)、砺波 HC (1.57)、富山市 HC (2.88)

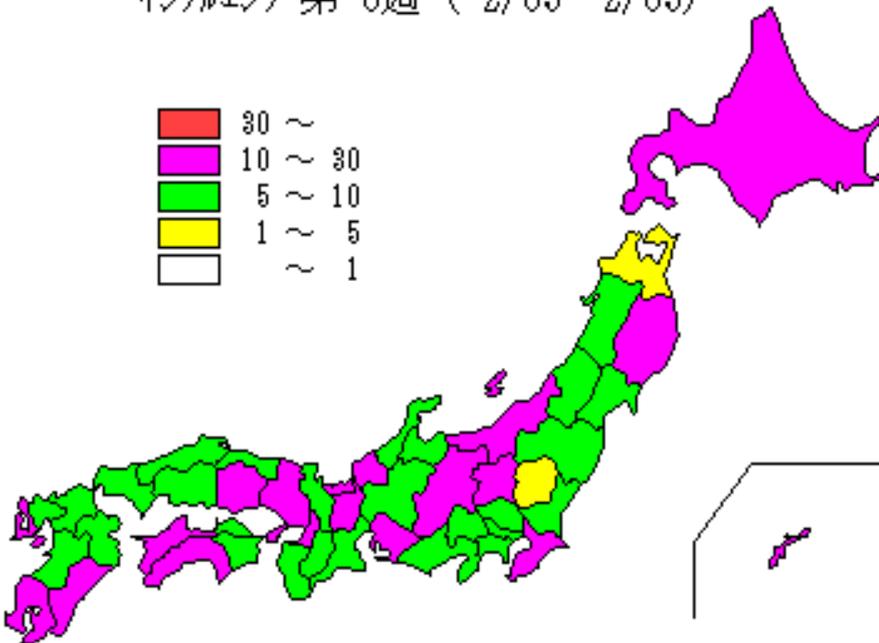
今週、県内のインフルエンザ報告数は、定点医療機関あたり 3.71 人となり、先週(5.33)から減少しました。県内のインフルエンザの流行は縮小傾向にあります。



● 都道府県別インフルエンザ患者報告状況 第6週 (2/3~2/9)

全国の患者報告数は、定点医療機関あたり 9.04 人となり、前週の 14.11 人より減少しました。北海道で前週より増加しています。46 都府県で前週より減少しています。

インフルエンザ第6週 (2/03- 2/09)



都道府県	人/定点	都道府県	人/定点
北海道	12.92	滋賀県	10.42
青森県	4.69	京都府	9.29
岩手県	11.08	大阪府	11.38
宮城県	6.15	兵庫県	10.70
秋田県	6.69	奈良県	8.49
山形県	8.17	和歌山県	6.92
福島県	9.49	鳥取県	6.59
茨城県	5.30	島根県	5.47
栃木県	4.93	岡山県	11.21
群馬県	11.78	広島県	6.77
埼玉県	9.51	山口県	6.96
千葉県	10.54	徳島県	5.84
東京都	6.89	香川県	6.55
神奈川県	7.44	愛媛県	11.77
新潟県	10.86	高知県	10.81
富山県	5.33	福岡県	8.87
石川県	9.08	佐賀県	7.36
福井県	10.43	長崎県	11.63
山梨県	9.71	熊本県	6.35
長野県	11.20	大分県	7.00
岐阜県	6.22	宮崎県	10.41
静岡県	9.52	鹿児島県	10.11
愛知県	11.33	沖縄県	12.67
三重県	8.81	全国	9.04

○感染症発生動向調査報告状況（令和2年1月分）

		1月報告分					累積報告数						
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	計
五類感染症 (定点把握)	性器クラミジア感染症		1	1		3	5		1	1		3	5
			1.00	0.33		0.75	0.50						
	性器ヘルペスウィルス感染症		1		2	3	6		1		2	3	6
			1.00		2.00	0.75	0.60						
月報対象疾患 (下段は定点当たりの患者数を示す)	尖圭コンジローマ					2	2					2	2
						0.50	0.20						
	淋菌感染症					3	3					3	3
						0.75	0.30						
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2	1	1	2	2	8	2	1	1	2	2	8
		2.00	1.00	1.00	2.00	2.00	1.60						
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			2			2			2			2	
			2.00			0.40							

本月報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。